

IV 佐倉ホワイエ

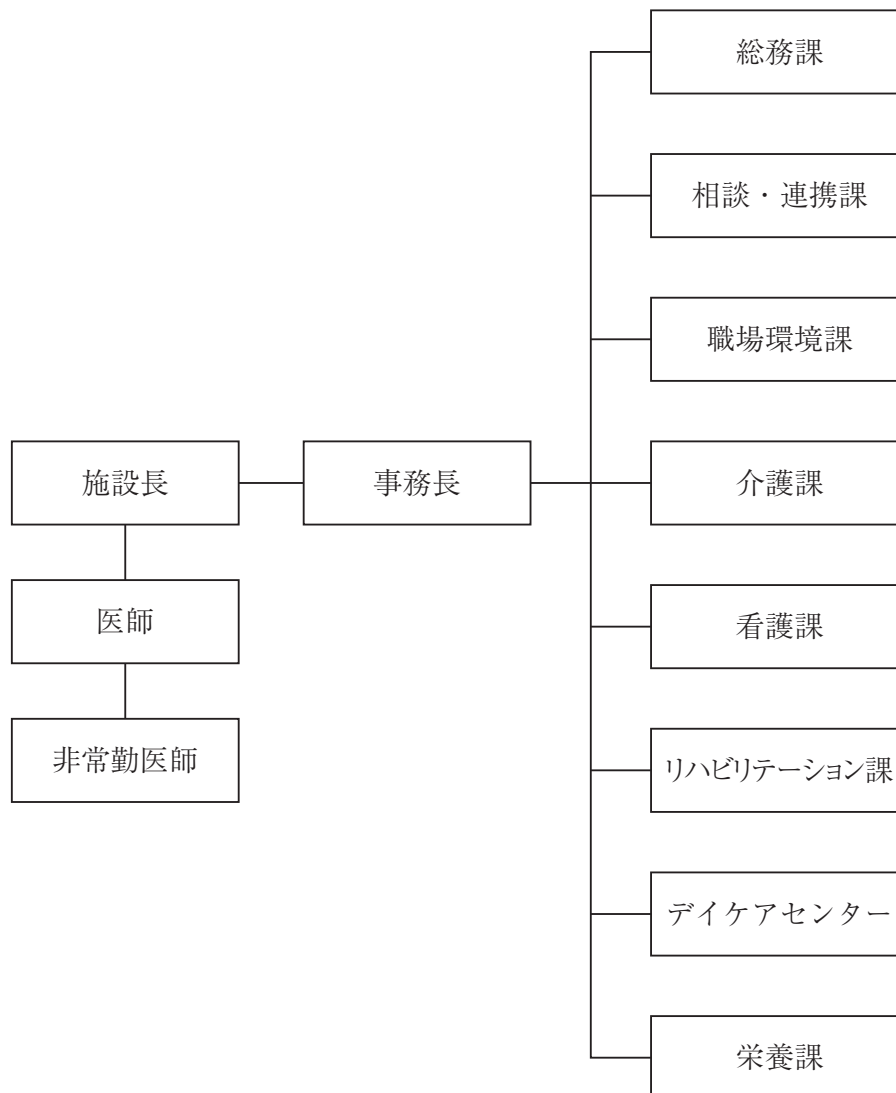
1 現況

概要

所在地 〒285-0025 千葉県佐倉市鎗木町336番地
TEL 043-484-4680
開設年 平成2年

施設長 遠山正博
入所定員 80人

組織図



事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

各種認定資格

●医師

2023年3月現在

氏名	認定機関	認定資格
遠山 正博	日本老年医学会	老人保健施設管理医師総合診療研修会修了
	全国老人保健施設協会	認知症短期集中リハビリテーション研修修了

●総務課

氏名	認定機関	認定資格
香取 文男	厚生労働省	社会福祉主事
	日本慢性期医療協会	リスクマネジメント研修修了
加藤 昌弘	千葉県公安委員会	副安全運転管理者
	日本医療教育財団	ケアクラーク
島 雅之	日本産業廃棄物処理振興センター	特別管理産業廃棄物管理責任者
	日本防火・防災協会	防火管理者／防災管理者

●相談・連携課

氏名	認定機関	認定資格
石田 康之	厚生労働省	介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
岡田 大輔	厚生労働省	社会福祉士／介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員

●介護課

氏名	認定機関	認定資格
丸山 恵	厚生労働省	社会福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
	中央職業能力開発協会	介護アテンドサービス士
	日本認知症ケア学会	認知症ケア専門士
	シルバーサービス振興会	介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者
関口 翔平	日本介護福祉士協会	介護福祉士実習指導者
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
	日本認知症ケア学会	認知症ケア専門士
	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級
	シルバーサービス振興会	介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者
藤江 誠	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級
	シルバーサービス振興会	介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者
坪井 真司	厚生労働省	社会福祉主事
保谷 浩一	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
佐久間 絢香	千葉県	高齢者施設等への応援職員派遣体制にかかる感染防止対策研修修了
児島 禎一	厚生労働省	社会福祉主事
中山 陽介	千葉県	高齢者施設等への応援職員派遣体制にかかる感染防止対策研修修了
知念 亮子	千葉県	高齢者施設等への応援職員派遣体制にかかる感染防止対策研修修了
砂川 洋介	千葉県	認知症介護実践者研修修了

●看護課

氏名	認定機関	認定資格
坂本 悦子	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
梶内 清治	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
宮内 美子	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員

●リハビリテーション課

氏名	認定機関	認定資格
金子正樹	厚生労働省	臨床実習指導者
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級
佐田龍吾	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修会修了
平澤美枝子	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修会修了
森本未来	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修会修了
依田香保	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修会修了
田代舞	日本リハビリテーション病院・施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修会修了

●栄養課

氏名	認定機関	認定資格
細島ひさゑ	厚生労働省	食品衛生管理士

●デイケアセンター

氏名	認定機関	認定資格
黒川修一	東京商工会議所	福祉住環境コーディネーター2級
	全国老人保健施設協会	生活行為向上リハビリテーション研修会修了

●厚生園ケアマネジメントセンター

氏名	認定機関	認定資格
高橋隆彦	厚生労働省	社会福祉士／介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	主任介護支援専門員
内藤順江	厚生労働省	介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
成毛育子	厚生労働省	介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員
外村直樹	厚生労働省	介護福祉士
	千葉県介護支援専門員協議会	介護支援専門員

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

施設利用状況

			2020年度	2021年度	2022年度
1日平均入所者数(人)	介護老人保健施設	要介護1	3.0	3.6	4.1
		要介護2	15.9	15.7	16.2
		要介護3	13.0	15.2	17.7
		要介護4	27.0	24.1	23.5
		要介護5	17.1	16.9	14.4
		計	76.2	75.4	75.9
	短期入所療養介護入所	要介護1	0.2	0.2	0.0
		要介護2	0.1	0.5	0.1
		要介護3	0.4	0.2	1.0
		要介護4	0.3	0.2	0.1
		要介護5	0.2	0.6	0.1
		計	1.1	1.6	1.3
合 計			77.3	77.0	77.2
1日平均通所者数(人)	通所リハビリテーション	要介護1	5.9	4.3	4.0
		要介護2	7.9	9.8	9.0
		要介護3	5.8	6.2	5.3
		要介護4	3.9	4.3	7.1
		要介護5	0.5	0.9	1.0
		合計	24.1	25.6	26.3
	予防通所リハビリテーション	要支援1	1.2	1.0	0.8
		要支援2	4.9	5.7	4.4
		合計	6.1	6.7	5.2
	合 計			30.2	32.3
平均入所利用率(%)	介護老人保健施設		95.2	94.2	94.9
	短期入所療養介護入所		1.4	2.0	1.3
	合 計		96.6	96.2	96.2
平均通所利用率(%)	通所リハビリテーション		48.1	51.2	46.6
	予防通所リハビリテーション		6.2	13.4	10.8
	合 計		54.3	64.6	57.4
平均在所日数(日)	介護老人保健施設		632.4	546.8	793.0
	短期入所療養介護入所		11.8	12.7	5.6
	合 計		644.2	559.5	798.6
平均要介護度	介護老人保健施設		3.5	3.5	3.4
	短期入所療養介護入所		3.0	3.3	3.3
	合 計		3.5	3.5	3.3
在宅復帰率(%)			11.7	15.1	11.8
利用者100人あたりの 従業員数	医師		1.1	1.1	1.1
	看護師・准看護師・介護職員		47.6	47.0	45.8
	支援相談員・PT・OT・ST		10.1	12.3	12.9
	その他		7.1	6.8	6.7
	合 計		65.9	67.2	66.5

2

業務実績

総務課

文責／加藤昌宏

スタッフ(2023.3現在)

事務員：常勤2名、非常勤2名
 常勤：加藤昌宏(課長)、島 雅之(主任)
 非常勤：杉山恵美子、小川雪江

活動状況

1. 利用料請求業務
 利用料の自己負担分を利用者に請求するとともに介護保険請求業務を行った。
2. 環境管理業務
 施設内の設備、清掃について委託業者と連携し適正な環境管理を行った。

3. 備品管理業務

施設内で使用する備品の発注、受領、管理業務を行った。

4. 受付業務

窓口にて来客対応業務を行った。

上記業務を行う上で、廃棄物の低減、節電、節水等の省エネルギー化、経費の節減に努めた。

今後の目標

物価高騰に伴い、経費の増加が予想される。健全な経営に向け、更なる省エネ化、物品の適正価格での購入等、コストの削減を図ると同時に施設基準を確認し算定可能な加算の届出を積極的に行うことで、増収に繋げたい。

相談・連携課

文責／石田康之

スタッフ(2023.3現在)

支援相談員：常勤2名
 石田康之(係長)、岡田大輔(主任)

活動状況

1. 入所利用者数の月別変動
 入所実利用者は111人、入所延べ利用者数は28,098人、1日平均は77.0人であった。入所利用者数は、2022年9月の新型コロナウイルス感染症クラスターの影響が大きくあったものの、昨年の114人から微減に留まった。月別変動をみると、2022年9月は、新型コロナウイルスクラスターにより、相談、受け入れを制限したこともあり、制限解除後もその影響が続いた。12月以降の利用率は改善傾向である。
2. 入所利用者の年齢、要介護度、入所経路
 入所利用者111人を入所時年齢別にみると、80歳代は52人(46.8%)、90歳代は32人(28.8%)、100歳以上は

2人(0.1%)であった。昨年度は、それぞれ44.7%、28.1%、0.1%であったので、昨年度より若干利用者の高齢化が進んだ。要介護度別利用者数は、要介護度5が16人(14.4%)、要介護度4が29人(26.1%)、要介護度3が25人(22.5%)であった。昨年度はそれぞれ18.4%、26.3%、19.3%であり、今年度は要介護度5の割合が減少し、要介護度3の割合が増加した。入所経路についてみると、病院からの入所者は75人(67.6%)であり、昨年度の74人(64.9%)と比べると、微増した。居宅系(居宅・グループホーム・有料老人ホーム・サービス付き高齢者住宅・短期入所)からは31人(27.9%)、昨年度の35人(30.7%)。老健からは5人(4.5%)、昨年度は6人(5.3%)であり、それぞれ微減した。

今後の目標

感染予防対策を徹底した上で近隣病院と連携し積極的に受け入れを進めたい。居宅と入所の交互利用を推進し、稼働率向上を目指したい。

介護課

文責／丸山 恵

スタッフ(2023.3現在)

介護職員：常勤24名、非常勤9名
 常勤：丸山 恵(課長)、関口翔平(係長)、
 藤江 誠(主任)、坪井真司(副主任)、

保谷浩一(副主任)、鈴木厚祐(副主任)、
 児嶋禎一(副主任)、佐久間絢香(リーダー)、
 中山陽介(リーダー)、笹川有香、高橋麻莉菜、
 知念亮子、藤野優由貴、長山ゆめか、堀江 泉、
 菅原あやか、二葉知子、白井元輝、井上 学、

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

小野寺陽子、泉澤亜由美、西條典子、豊田悦子、
木村由美子

非常勤：池田裕子、鈴木恵子、小出芳枝、石渡俊枝、
岡部真理子、片岡公子、大久保すみ子、
畠山裕子、柴倉すみ子

活動内容

1. 危険発生予防の試み

新規入所者の動きや眠りの状態をいち早く把握するため、入所から1週間は眠りスキャンを設置し、睡眠状況や移乗などの動作を見守り、アセスメントすることとした。1週間の動きを観察して得た情報をもとに、その方にとって必要な環境を看護課、リハビリ課と検討し設定するようにした。感覚ではなく科学的根拠に基づきケアを考えることで対応が統一できるようになってきた。

また、ヒヤリハットを積極的に報告し、毎週検討会を実施した。センサーマットや眠りスキャンの使用に限らず、注意喚起の張り紙や、新たなすべり止めマットの導入など施設全体として取り組み、個人レベルから全体レベルに向けた取り組みが行えるようになった。

2. 介護職員の業務負担軽減の試み

介護ロボット導入に向け、排尿予測デバイス「DFree」を導入すべきか検討した。開発された株式会社トリプル・ダブリュー・ジャパンの担当者から使用方法についての指導やデータ分析など、様々な面からサポートしていただき、利用者に使用することができた。超音波により膀胱内の尿のたまり具合を調べようとしたが、個人の身体の状態や機器の装着位置などによって正しくデータが取れないこともあり、安定したデータを取得するまでには少し時間を要した。明け方に排尿量が多く尿漏れしてしまう利用者は、尿のたまり具合を確認することで、排泄する前にトイレ誘導を行ったので、漏れは激減し、トイレでの排泄を成功させることができた。以前より老健として排泄への取り組みには力を入れてきたが、この「DFree」を導入することで、おむつの使用量を減少させ、利用者の皮膚状態を良好に保つことができれば、利用者、職員ともに有意義で

あると考えている。

その他の介護ロボットの導入についても積極的に検討し、業務負担の軽減に引き続き取り組みたい。

3. 感染症予防の取り組み

新型コロナウイルス感染症予防に向けて取り組んできたが、2022年9月にクラスターが発生し、利用者34名、職員15名(うち介護職員10名)が感染した。2階フロア全体と1階フロアの一部をレッドゾーンとし、職員は限定してケアにあたった。これまで感染予防として食堂のテーブルへのアクリル板設置や共用部の消毒、ガウンテクニックの研修など行ってきた。しかし、今回のクラスターに発展してしまったのは、閉ざされた施設の中でも活動的に生活されている方が多く、利用者同士の交流もされているためと考える。ひとたび施設の中にウイルスが入り込むと、感染が拡大してしまうのを実感した。また、今回のクラスターを受けて、施設の中での動線、人との交わり方など考えさせられる部分が多くあった。現在、コロナ禍で中止していた面会については、オンライン面会やアクリル板を設置したブースでの対面面会を導入するなど、利用者と家族の距離が少しでも近づけるよう、取り組んでいる。今後も老健としての在り方についてよく考え、感染を予防しながら利用者、家族、職員とともに成長できる施設でありたい。

今後の目標

1. ヒヤリハット報告による取り組みをマニュアル化し、経験年数の違いなどによって対応が異なるように、全体のレベルの底上げに努める。
2. 介護ロボットの更なる導入に向け、パワーアシストスーツや、見守り支援機器、インカムなど試験導入を積極的に行い、本格導入に向け進める。また、業務の見直しを行い、研修や介護技術指導などにも力を入れられるよう、時間を有効に使う努力をする。
3. 感染予防に取り組みながら、利用者と家族との距離に配慮し、感染症を予防しながら行える交流を少しでも多く取り入れる。

看護課

文責／清治恵子

スタッフ(2023.3現在)

看護師：常勤4名、非常勤3名

常勤：清治恵子(師長)、篠田望美、神林祐子、
神多野節子

非常勤：小林貴代子、坂本悦子、宮内美子

准看護師：常勤6名、非常勤1名

常勤：梶内清治(主任)、長竹静子(主任)、

小川ひろ子(副主任)、長谷川順子、米嶋いつ子、
森川美也子

非常勤：長谷川敏子

活動状況

1. 入所利用者について

平均年齢86.69歳と超高齢化している。90歳以上が38.0%で、100歳以上が2名となった。様々な疾患を抱えている利用者の健康管理については、毎月の体重チェック、適切な検査の実施、日々観察をすることで、異常の早期発見に努めた。入院した入所者25名の疾患は、呼吸器系10名、循環器系6名、中枢神経系2名、悪性腫瘍2名、運動器系2名、消化器系2名、皮膚科1名だった。また、適切な治療後の再入所者が6名、2名は空床がなく受け入れ不可で、死亡の報告が7名あった。入所中の主な疾患は肺炎、尿路感染症、蜂窩織炎、脱水、带状疱疹などで、年間延べ201回点滴治療を行った。身体拘束をしない環境では、創意工夫が重要である。新規入所者は22名で、ショート利用者は延べ55名となった。年間最高20回の利用者がいた。感染防止のため、3日間は個室管理とし、ショート利用者は不利益を被らないよう最善の対策で受け入れた。

2. 新型コロナウイルス感染症クラスターの分析

2022年9月1日入所者34名、職員15名が新型コロナウイルス感染症に感染し、クラスターとなった。病院入院2名以外は、点滴、酸素療法、ラゲブリオの確実投与、

解熱剤などの内服で回復し、全面解除までは28日を要した。クラスター発生の主な要因は、無症状の職員であった。さらに認知症の利用者の徘徊により感染が拡大し、入所時の抗原検査が未実施だったことも一因と考えられる。適切な感染対策を徹底し一丸となって対処し、短期間で終息を迎えられたことは、過酷な勤務状況にも耐え頑張りぬいた職員の賜物である。入所時全員の抗原検査の実施、担当者を限定することで感染拡大を防止する体制を整えた。

3. 看護学生の実習受け入れ

千葉中央看護専門学校の予定の6名に加え、他施設のクラスター発生によって実習ができなくなった学生6名を受け入れた。利用者は、気疲れした人もいたが、概ね好評で生き生きとした表情でレクリエーションに取り組む姿がみられ、職員にとっても刺激となった。

今後の目標

1. 「施設に持ち込まない」を合言葉に感染予防対策を徹底し安心して生活できる環境を整備する。
2. 利用者の特性を理解し統一したケアができるよう、学びを深め看護の質の向上に努める。
3. 電子カルテ導入に対処できるよう周知する。

リハビリテーション課／栄養課

文責／金子正樹、平澤美枝子

スタッフ(2023.3現在)

理学療法士：常勤5名、非常勤2名

常勤：金子正樹(理学療法・作業療法科主任)、
佐田龍吾(副主任)、依田香保、萩野匡史、
菊池嘉志

非常勤：秋山大輔、鈴木宏美

作業療法士：常勤1名

鈴木亜矢

言語聴覚士：常勤3名

平澤美枝子(言語聴覚科係長)、
田代 舞(リーダー)、森本未来

助手：常勤1名

千葉哲也

活動状況

【入所】

- ・2022年度の新規利用者33名について、FMSでは重度と軽度は減少し、中等度が増加した。HDS-Rでは重度が増加した。機能的に改善する余地は高いが、自己動作による事故も増える点数域である。ADLの変化が

大きい入所初期に各課連携し環境調整を随時行うことにより、自立促進と重大事故を極力予防する方法を積み上げている。入院退所のうち事故による退所者を減らし、利用者の希望に沿った退所先へ移行できるよう支援したい。

- ・2022年6月から認知症短期集中リハビリテーション実施加算の算定を開始した。ADLが改善しやすい入所初期から3ヶ月間に介入できる回数が増えることで、より早期に利用者の自立促進に寄与できるようになった。2022年度は計673単位を算定した。
- ・週1回開催のヒヤリハット検討会に参加し、重大事故を予防する活動を開始した。ADL改善や自立促進に伴い、自己動作が増えることで事故に繋がる可能性が大きくなる。これまでも環境設定に不具合があれば早急に対応してきたが、2022年度からヒヤリハット報告を積極的に出しあい、対応方法について毎週検討することにより、新たな事故防止のアイデアや対応変更等の情報の周知に役立っている。
- ・2022年度の経管栄養中の新規利用者は5名。2021年度から経口移行に取り組んでいた利用者1名が移行できた。

・歯科衛生士による介護職員への指導は延べ22回行われた。

FMS(点)	2020年度	2021年度	2022年度
40～48	1	3	5
32～40	5	4	2
25～32	6	10	3
17～24	2	6	8
9～16	3	4	3
0～8	12	9	9
その他	0	3	3
合計	29	39	33

HDS-R(点)	2020年度	2021年度	2022年度
26～30	4	2	2
20～25	2	6	4
16～20	1	5	4
11～15	8	8	5
6～10	5	8	4
0～5	6	4	8
その他	3	6	6
合計	29	39	33

【通所】

- ・2022年度の新規利用者23名について、身体機能的には比較的軽度や重度が減少し、中等度が多かった。認知機能的には重度が減少し、良好な利用者が多かった。新型コロナウイルス感染流行の影響はまだ強く残っている状況ではあるが、利用者の動向をとらえ必要とされるリハビリテーションの提供に努める。
- ・担当者会議へ積極的に参加し、利用者と家族の要望や生活上の問題点を聴取することで、課題解決に繋がっている。2022年度は延べ36回参加した。
- ・能力低下が明らかな要支援者の区分変更を促した。それにより、生活上必要なサービス提供が可能になった。

TUG	2020年度	2021年度	2022年度
13.5秒以内	7	5	2
20秒以内	9	10	7
20.1秒～29.9秒	5	7	5
30秒以上	10	6	4
不可	3	6	1
その他	1	1	4
合計	35	35	23

HDS-R(点)	2020年度	2021年度	2022年度
26～30	12	11	10
20～25	7	9	5
16～20	5	8	3
11～15	5	3	3
6～10	2	3	0
0～5	0	0	1
その他	4	1	1
合計	35	35	23

今後の目標

- ・入所は居宅サービスを活用しながらの在宅退所に繋がるケースが増えてきている。利用者にとって適切な居場所を検討し、在宅退所の流れも継続できるようにしたい。
- ・通所は地域活動を通し、自治体・地域包括支援センター・居宅ケアマネージャー・地域の高齢者との繋がりを強くし、介護予防へ貢献したい。また、要支援・要介護者だけでなくその家族も、より長く住み慣れた環境で自分らしい生活を送れるよう、支援体制を充実させたい。

デイケアセンター

文責／黒川修一

スタッフ(2023.3現在)

理学療法士：常勤1名

黒川修一(センター長)

介護職員：常勤8名、非常勤2名

常勤：前田美香(副主任)、山口真弓(リーダー)、

関口千恵美、中山彩夏、前田匠太、池田 円、
砂川洋介、平田朱里

非常勤：丸山絵里奈、山本由佳

活動状況

1. 通所利用者数の月別変動

本年度の通所実利用者数は138名、通所延べ利用者数は8,678名、1日平均28.6名であった。延べ利用者数は

昨年度の9,944名より大幅に減少した。理由としては、当施設で初めて新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、その影響により1週間の休業とその後の縮小営業を余儀なくされたため、利用者数の減少につながったと考える。また昨年度に比べ、行動制限が解除されたことによる感染者の増加を背景に、濃厚接触者や利用者・家族間で少しでも体調が悪い方は休んでもらうなど、感染予防をベースに対応していたことも利用者数の減少の原因と考える。通所中止利用者30名中(死亡により中止した5名を除く)、25名を中止理由別にみると、卒業は3名(12.0%)で昨年度の2名(8.0%)より増加、サービス移行者は13名(52.0%)で昨年度の10名(40.0%)より増加、利用継続不能となった利用者は9名(36.0%)で昨年度の13名(52.0%)より減少した。

2.リハビリテーションからの活動報告

昨年度同様、効果的・継続的なリハビリテーションの提供を目的としたリハビリテーションマネジメント加算B(ロ)やLIFEの加算を継続的に取得している。また退院後等の新規利用者には、積極的な介入のため短期集中リハビリテーション実施加算もしくは、認知症短期集中リハビリテーション実施加算を今年度より取得している。生活行為向上リハビリテーション実施加算は12月～1月で1ケース実施し、訪問を交えながら利用者の自宅入浴の獲得に介入した。また昨年1年間のデイケアセンター卒業実績により、来年度より1年間、移行支援加算の取得が可能となった。

今後の目標

2023年5月より新型コロナウイルスの感染症法5類への移行も検討されていることから、通所利用者稼働率の増加を目指し、事業所等営業や施設の活動、イベントなどにも力を入れたい。また地域に根差した施設として、地域包括支援センターなどから依頼のある地域活動へも積極的に協力したい。適切なリハビリテーションの提供も継続する。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

3

委員会活動

運営委員会

文責／香取文男

◎目的

施設の経営方針、事業の進捗状況、実績状況などの運営が円滑に行えるよう各課の代表により検討する。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：遠山正博(施設長)

事務長：香取文男

総務課：加藤昌宏、島 雅之

相談・連携課：石田康之

介護課：丸山 恵、関口翔平

看護課：清治恵子

リハビリテーション課：平澤美枝子

デイケアセンター：黒川修一

栄養課：尾田美穂

◎開催日

毎週火曜日、午後3時

◎活動報告

施設長を中心に各課代表により構成。施設運営の根幹となる事項を検討し、事業成績の向上を図った。

◎今後の目標

継続して、業績の向上を図る。

入退所検討会

文責／石田康之

◎目的

入退所決定の透明性、公平性を確保し、より適切な介護サービスの提供を行う。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：遠山正博(施設長)

事務長：香取文男

相談・連携課：石田康之、岡田大輔

介護課：関口翔平

看護課：清治恵子

リハビリテーション課：金子正樹、田代 舞

デイケアセンター：黒川修一

栄養課：細島ひさゑ、尾田美穂

◎開催日

毎週火曜日(第4週はなし)、午後2時

◎活動状況

病院からの利用者は75人、居宅系からの利用者は31人であった。今年度は新型コロナウイルス感染症クラスターによる影響があったものの、全体的には昨年度と大きな変わりはない。入所利用者については、初期から今後の方向性を議論し、在宅復帰に繋げることができた。

◎今後の目標

入所初期から情報を共有し、在宅復帰率の向上を図る。

虐待防止検討委員会

文責／香取文男

◎目的

利用者の安全と人権保護の観点から、適正な支援を実施する。利用者の自立と社会参加のための支援を妨げることのないよう、必要に応じ、随時、委員会の開催と研修を整備し、虐待の防止に努める。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：香取文男(事務長)

相談・連携課：岡田大輔

介護課：丸山 恵、鈴木厚祐、豊田悦子

看護課：清治恵子、長竹静子

リハビリテーション課：金子正樹、森本未来

◎開催日

第3月曜日、午後4時

◎活動報告

虐待防止に関する指針の策定と既存の虐待防止マニュアルを現行の関係法令に準拠したものに更新し、2023年度の完成を目指す。新入職者向け研修と在職者向けの研修を開催し、虐待防止に関する知識を習得できる研修カリキュラムのあり方を検討した。

◎今後の目標

介護保険法で義務付けられた法整備と研修を実施し、今後も虐待防止に関する取り組みを推し進める。

事故防止検討委員会

文責／香取文男

◎目的

安全かつ適切に質の高い介護サービスを提供するために、介護による事故を未然に防ぐ。万が一、事故が発生した場合は、速やかな対応と同じ事故を繰り返すことがないように、知識の習得と研修を実施する。組織的に事故防止対策に取り組み、利用者の安全で快適な生活を守るように努める。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：香取文男(事務長)

相談・連携課：岡田大輔

介護課：丸山 恵、鈴木厚祐、豊田悦子

看護課：長竹静子

リハビリテーション課：金子正樹、森本未来

◎開催日

第3月曜、午後4時

◎活動報告

事故防止に関する指針を策定し、既存の事故防止マニュアルを現行の関係法令に準拠したものに更新した。新入職者向け研修と在職者向けの研修を開催し、事故防止に関する知識を習得できる研修カリキュラムのあり方を検討した。

◎今後の目標

介護保険法で義務付けられた法整備と研修を実施し、今後も事故防止に関する取り組みを押し進める。

身体拘束検討委員会

文責／香取文男

◎目的

利用者等の生命および身体を保護するため、緊急のやむを得ない場合を除き、身体拘束等その他の利用者の行動を制限する行為を禁止する。拘束廃止に向け、身体拘束をしないケアの実施に努める。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：香取文男(事務長)

相談・連携課：岡田大輔

介護課：丸山 恵、鈴木厚祐、豊田悦子

看護課：長竹静子

リハビリテーション課：金子正樹、森本未来

◎開催日

第3月曜日、午後4時

◎活動報告

今年度の拘束者は3名(鼻腔チューブ自己抜去1名、胃ろうの自己抜去1名、認知症による暴力行為1名)であった。新型コロナウイルス感染症の流行が終息せず、ボランティア活動の休止や直接面会ができないストレスから、不穏行動や徘徊、自傷行為が認められた。現在、鼻腔チューブ自己抜去1名以外は解除されている。

◎今後の目標

拘束廃止に向け、身体拘束をしないケアの実施に努めながら、利用者の生命と身体の保護に向けた取り組みを行う。

感染対策委員会

文責／清治恵子

◎目的

感染症に関する研修の企画開催や関連マニュアル整備をすることで、職員の予防意識や知識・技術の向上、施設内感染を防止する。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：清治恵子(看護課)

事務長：香取文男

相談・連携課：石田康之

介護課：丸山 恵、関口千恵美、二葉知子、小野寺陽子

看護課：篠田望美

リハビリテーション課：佐田龍吾

◎開催日

第3火曜日、午後0時30分

◎活動状況

感染症発生時に必要な感染症対応バケツの管理や、疥癬発生時の対応マニュアルを整備し、適切な対応の指導をした。2022年9月の新型コロナウイルス感染症クラスターの発生時、演習したガウンテクニックや手指消毒について、周知徹底指導を行ったことで早期解除できた。また、嘔吐物処理演習は全員参加を目標に介護主体で5回にわたって実践することで理解を深めた。

◎今後の目標

感染症発生予防はもとより、万が一発生した際の対応についても適切に対応できるようマニュアルの改訂や実地研修を行い、体制を整える。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

褥瘡改善委員会

文責／米嶋いつ子

◎目的

褥瘡発生予防、減少を目指す。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：米嶋いつ子(看護課)

相談・連携課：岡田大輔

介護課：丸山 恵、保谷浩一、佐久間絢香

看護課：神多野節子

リハビリテーション課：田代 舞、萩野匡史

栄養課：尾田美穂

◎開催日

第1水曜日、午後1時30分

◎活動状況

利用者の褥瘡ケア計画書・自立支援計画書を3ヶ月に1回作成(入所日基準)した。2022年度の褥瘡発生は7名(うち持ち込み1名)で、治癒に要した期間は1~2週間であった。持ち込みの1名は治癒に半年を要し、2名は入院のため退所した。本年度は、看護・介護・リハを対象にポジショニングの勉強会を行った。また、エアーマットを5台導入した。

◎今後の目標

各課連携し褥瘡発生予防と早期発見に努める。

排泄検討委員会

文責／児嶋禎一

◎目的

排泄状況の改善を目指す。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：児嶋禎一(介護課)

事務長：香取文男

介護課：丸山 恵、知念亮子

看護課：長竹静子

リハビリテーション課：萩野匡史

◎開催日

第1火曜日、午後0時30分

◎活動報告

利用者の排泄支援計画書を3ヶ月に1回作成(入所日基準)した。利用者および介助者の心身の負担軽減を図るため、介護ロボット(DFree)を試行実施。また、自立支援を図るため、生活の質の向上を目標に直接利用者からの意見を取り入れ、備品等の見直しを行いながら環境整備に努めた。便の性状が緩く漏れの多い利用者に対しては服薬を調整することで、漏れの改善およびオムツの在庫量削減に繋がった。

◎今後の目標

今後も各課と連携し、個々の能力を最大限に活かした排泄支援を行う。

栄養委員会

文責／米嶋いつ子

◎目的

全ての利用者を対象とし、個々に見合う充実した食事の提供と栄養状態の維持、向上を目指す。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：米嶋いつ子(看護課)

事務長：香取文男

相談・連携課：岡田大輔

介護課：丸山 恵、保谷浩一、山口真弓、佐久間絢香

看護課：神多野節子

リハビリテーション課：田代 舞、萩野匡史

栄養課：尾田美穂

◎開催日

第1水曜日、午後0時30分

◎活動報告

健康管理の一環として、個々の利用者の栄養管理について対策を講じ、栄養状態の改善、疾病の予防、QOL向上に努めた。また、残菜量の多い献立を見直し、喫食率の向上と食材残渣物の減量に努めた。新型コロナウイルス感染症クラスター発生時は、 Disposable食器・食札にて食事を提供、配膳車等の消毒を徹底し、感染拡大防止に努めた。

◎今後の目標

喫食率の更なる向上や低栄養状態の高リスク対象者減少、褥瘡予防に寄与する。

防災・BCP委員会

文責／加藤昌宏

◎目的

災害時における防災対策や定期的な避難訓練の実施およびマニュアルの作成、見直しを行う。また、必須となったBCP(事業継続計画)の整備に対応する。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：加藤昌宏(総務課)

総務課：島 雅之

介護課：関口翔平、菅原あやか、西條典子

看護課：小川ひろ子

リハビリテーション課：黒川修一、佐田龍吾

◎開催日

第2火曜日、午後0時30分

◎活動報告

コロナ禍で通常の防災訓練を実施できないため、管轄消防署と相談の上、参加者は最少人数とし口頭説明で実施した。日常点検を行い、トラッキング発火等の予防に努めた。また、新型コロナウイルス感染症発生時と自然災害発生時の業務継続計画の作成を行っている。

◎今後の目標

長期間、防災訓練が未実施となっているが、新たな職員も入職しているため、感染対策を講じた上で、防災訓練を実施する。業務継続計画を完成させる。

職場精神衛生管理委員会

文責／平澤美枝子

◎目的

就業意欲が向上する職場環境を創出する。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：平澤美枝子(リハビリテーション課)

事務長：香取文男

相談・連携課：石田康之

介護課：丸山 恵、中山陽介、関口千恵美、泉澤亜由美

看護課：長谷川順子

リハビリテーション課：菊池嘉志

◎開催日

第4水曜日、午後0時30分

◎活動報告

・施設内研修の年間計画と進捗管理を行った。クラス

ー発生など新型コロナウイルス感染状況に合わせて調整した。各研修の企画については担当の課や委員会に依頼することで、より実用的な内容で行えるようになった。

・新入職員定着のため、面談(3・6・12か月)を延べ14回実施した。

・入所・通所利用者、家族に対し満足度調査を行った。結果を掲示し職員へ周知した。

◎今後の目標

・施設内研修計画や職員面談を継続し、職員の就業意欲向上に寄与する。

・今までに作成した指導用テキストに過不足が生じ改訂が必要となっているため、対応していく。

プラン・データ委員会

文責／島 雅之

◎目的

LIFEの仕様の変更に対応し、データ提出の監督、係る加算の算定をする。署名欄に代わる同意書を作成・管理し、適正な施設運営を補佐する。

◎メンバー(2023.3現在)

委員長：島 雅之(総務課)

事務長：香取文男

総務課：加藤昌宏

介護課：関口翔平、藤江 誠

看護課：梶内清治、宮内美子

リハビリテーション課：金子正樹、平澤美枝子

デイケアセンター：黒川修一

◎開催日

第4火曜日、午後0時30分

◎活動状況

科学的介護推進に関する評価(施設・通所居住)、自立支援促進に関する評価、口腔機能向上サービスに関する計画書、排せつの状態スクリーニング・支援計画書、褥瘡対策に関するスクリーニング・ケア計画書、リハビリテーション実施計画書の提出に関する検討、関連する加算の算定を継続算定した。新たに薬剤変更等に係る情報提供書の作成・管理、加算の算定を開始した。

計画書毎に署名を求めていたところ、複数の計画書に対し一枚の同意書式を作成したことで、一連の作業の簡

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

素化を図った。

署名取得状況を一覧にして担当者と共有することで、より簡易な状況把握を可能にした。

◎今後の目標

LIFEへのデータ提出に係る事務作業、各種計画書および同意書の管理を効率化する。

4 活動報告

1. 不穏症状と面会の関係

昨年度に引き続きweb面会を実施。初めは不慣れであった家族が端末などの操作に習熟してきたことで、グループ通話やスクリーンショットなどの機能を活用され始め、思い思いに面会を楽しまれていた。継続的に面会が続き、活動的になった利用者もおられた。活動性を可視化する指標を設定することで、面会との関連性を検討していく。

2. 施設内研修

昨年度は動画研修が中心であったが、本年度は吐瀉物処理の実技研修を実施した。ノロウイルスなどによる激しい嘔吐の処理をしたことのない職員が増えている。殺菌剤の希釈やガウンテクニックなどについて、知識として知っているだけでなく、いつでもスムーズに対応できることが目的である。新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、今後の研修について検討していく。

3. 高齢者に適するおやつを提供

新型コロナウイルス感染症のクラスター発生により中止。

4. 社会貢献活動

介護予防のための地域ケア個別会議

活動部署：デイケアセンター

開催日：2022.5.19、9.15、2023.1.19

場所：千成自治会館

地域ケア圏域推進会議

活動部署：デイケアセンター

開催日：2023.10.19

場所：ミレニアムセンター佐倉

活動名：茶話やか祭り(福祉祭り)

活動部署：デイケアセンター

開催日：2023.2.19

場所：ミレニアムセンター佐倉

活動名：茶話やかサロン

活動部署：デイケアセンター

開催日：2023.3.28

場所：弥勒町会館

5 関連施設

厚生園ケアマネジメントセンター

文責／高橋隆彦

スタッフ(2023.3現在)

主任介護支援専門員：常勤1名

高橋隆彦(管理者)

介護支援専門員：常勤3名

内藤順江、成毛育子、外村直樹

活動状況

2022年度の目標は「佐倉厚生園病院の理念に基づき、安心できる在宅生活を支援する」とした。

1. ケアマネジメントの質の向上については内部・外部の研修に参加し、スキルアップを図った。また法令遵守を意識し、毎週の定例会や随時事例検討等を行った。
2. 感染症対策を講じた上、佐倉市内の地域包括支援センターとの研修会等に参加し、連携の強化を図るとともに、情報交換を行った。また社会資源等の情報を整理・有効活用した。退院・退所後の在宅生活がスムーズに行えるように相談員等との連携を図り、利用者が安心して在宅に復帰できる基盤作りを行った。
3. 市町村や地域包括支援センター主催の勉強会に参加す